



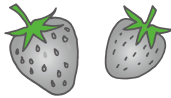
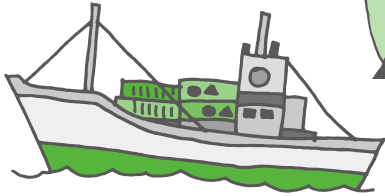
遠いところから物を運ぶにはたくさんの燃料が必要よ。排気ガスは地球温暖化の原因になるらしいの。



家の近くでアイスを買ったんだけど、ずいぶん遠くから運ばれてきていたんだね。



これからも輸入って続けられるのかしら？



私たちの身近なものをたどっていくと、世界中のいろいろな人やモノ、自然とつながっています。

このようなつながり方はいつまでも続けることができるのでしょうか？

今も未来も公平でずっと続けられる「人と人」や「人と自然」のつながりを取り戻すためにはどうしたらよいのでしょうか？



**持続可能な社会やライフスタイルの実現を目指して、みんなで一緒に考えてやってみる、それがESDです。**

岡山市ではさまざまな人や団体がESDに取り組んでいます。NPOや有志のグループ、学校でESDを実践している方々に、お話を伺いました。(6〜8ページ)

# 私たち、ESDに取り組んでいます

すでに岡山市では、多くの方がESDに取り組んでいます。  
学校やイベントなどを通じてあなたも何らかの形でESDに関わっているかもしれません。  
このコーナーでは、現在実践している団体の活動を紹介します。



イベントなどで  
リユースの食器を使うことにより  
ゴミを減らす「エコスマ」の活動



2012年で  
8回目を数える  
「西川キャンドルナイト」の活動

## 『タブララサ』活動の様子

「タブララサ」はもともと、緑豊かな西川緑道公園を人の集まる場所にしたいと、まちづくりを主軸にスタートした団体です。アートイベントやオープンカフェなどのイベントを重ねる度に大量のごみが発生したことから、リユース食器やキャンドル再利用のアイデアが生まれ、現在はそこから派生した6つのプロジェクトを中心に活動しています。環境保全や食育を考えることは大切ですが、そこを前面に押し出せば間口が狭まります。そこで、私たちは誰でも参加できるイベントで、楽しみながら自然と環境に目を向けるきっかけづくりができればと思っています。

2011年から、新たなプロジェクトに参加しています。飲み歩きイベント「ハレノミーノ」では、開始以前に比べ西川周辺の飲食店間に強い連携を生み出しています。また、循環可能なライフスタイルを提案する有機生活マーケット「いち」では、西川緑道公園に出店する飲食店と生産業者とのマッチングがありました。どんな活動も成果につなげるためには、地域の人たちの積極的な参加と継続的な取り組みが欠かせません。その中で「人と人」「人と街」を結ぶコーディネーターとして、「SII 持続可能な「DII 開発」を担っていければいいですね。

## エコや地域貢献の考えを取り入れ 楽しくまちづくりを

まちづくりから生まれた  
環境保全のアイデア

人と人がつながることで  
新たな取り組みが広がる

### 事例1

## 人と人、 人と街を結ぶ ESD

NPO法人  
タブララサ



NPO法人 タブララサ 理事長  
河上直美さん

エコや地域貢献の考えを取り入れ、  
アートイベントやオープンカフェなど  
行いながら楽しくまちづくりに取り組  
む20~30代を中心としたグループ。

## 事例2

# 入学から卒業まで 3年かけて取り組む ESD

光南台中学校



児島湖周辺の  
ゴミを集める生徒



園児と一緒に  
清掃活動に取り組む

## 「クリーンアップ光南台」活動の様子

### ESD活動が深める、 学校と地域のコミュニケーション

地域の清掃活動を軸に、  
意識を深め視点を広げる

2012年の6月にユネスコスクールに認定された光南台中学校は、以前から環境教育に取り組む土壌がありました。発端は、1995年に児島湖の水質悪化が問題になった際の「クリーンアップ光南台」という清掃活動です。当校を含め地域住民一体となって取り組んだ活動は、今でも継続されていますが、年数を重ねるにつれて、目的意識が薄れ、清掃することが当たり前になっていった面も。生徒とESD活動に取り組むようになり、「なぜゴミがここにあるのか、どうしたら捨てられなくなるのか」というところまで掘り下げて考えられるようになっていきます。

受け継がれていく思いと、地域や  
次世代へつながる取り組み

当校のESDへの取り組みがスタートしたのは、2011年度入学の1年生から。生徒が入学して卒業するまで3年かけて、その学年の特徴や成長度合に合わせて計画を見直し、実施します。これまでに豊島への校外研修、地球温暖化で水没の危機に瀕するツバルに関する講演会などを行いました。また、計画の核に据えている「クリーンアップ光南台」では、保育園・幼稚園児と一緒に取り組み、ESD活動を次世代へとつなげていく取り組みもしています。このような活動を通じて、当校から地域また多くの人へESD活動が浸透していくのが理想です。



光南台中学校 教諭  
林田重紀さん

型にはまらない自由な発想で、活動に取り組むESDの担当教員。ESDという視点を通して、生徒たちに人生を学んでほしいと願う。教師歴10年。担当教科は数学。

未来の教員もESDを学んでいます！

### 岡山大学大学院教育学研究科

ESDを推進できる  
教員を育てています

岡山大学は全学教職課程において、2010年度からESDの理念をもち、学習指導力・生徒指導力・コーディネート力・マネジメント力の4つの教育実践力をバランスよく身につけた反省的で創造的な教員を育てることを「ディプロマポリシー（修了時の到達目標）」としています。1年次に必修授業でESDの基本を理解し、2年次から理論を深め大学内外の活動を通して実践するカリキュラムです。

ディプロマポリシーを掲げたことで、ESDを推進することが学内でも明確になり、指導する大学教員で協力的体制が構築されていることが、教員を育てる上で大きな支えとなっています。



岡山大学大学院教育学研究科 准教授  
川田 力さん

勤務する大学のほか、岡山市内の小・中学校においてもESDの普及活動に取り組んでいる。

### 事例3

# 多様な生き方を知り 自身の価値観を築く 後押しをするESD

## 「だっぴ」実行委員会



2012年1月に開催した「だっぴ50×50～2012～」の全参加者



定期的に集まり、次回行う「だっぴ50×50」の案を練る実行委員のメンバー

## 「だっぴ」活動の様子

### イベントでの出会いを通じて、 新しい自分に「だっぴ」してほしい

若者が持つ地域への熱い思いをつなぐ場をつくりたかった

就職や仕事に対する多様な価値観に気づくきっかけを提供

以前から、「地域をよくしたい」という思いを持つ若者がもつつながりを持たせたら、地域が魅力的になるのでは？と思っていました。そこで彼らが「つながる場」Ⅱ「かいわれの会」を立ち上げ、日本中を飛び回るようなゲストの話聞く場を設けていました。そのうち、地域への思いを行動に移せないでいる若者にも、多くの人と出会い、いろんな価値観を知ってほしいと考え始めたんです。それが「だっぴ」イベントです。地域に自分探しの場があれば若者に気づきが生まれ、それをつなげば結果的に地域の魅力アップや持続的な発展につながると思うんです。

「だっぴ50×50」は、学生が中心となって進めるイベント。彼らが「魅力的に働いている」と思うゲスト50人と自分の生き方を模索する若者50人が出会い、互いに意見を交わすことで「大企業がよい」といった固定観念にとらわれることなく、多様な価値観や働き方があることに気づくきっかけを提供しています。過去に若者がゲストの企業へ就職したり、意気投合したゲストの環境活動へ参加したり、またゲスト同士が仕事でつながった例もあります。今後は、回数や開催地域を増やすなどして、人と人がつながる場をたくさん提供したいですね。



「だっぴ」世話人  
柏原拓史さん

10年つながる仲間づくりを目指し、さまざまなアイデアで人と人を結びつけている。そうすることで岡山が豊かになることが目標。



まず、ゲストと参加者が左右半分ずつに対面し、その後グループに分かれる



みんなが平等に意見を述べられるように、フリップを使いテーマについて話す